

教育連携講座 市来 百合子 教授



アートセラピーにおける“もの(素材)”の意義



キーワード アートセラピー/ 素材/ 描画療法/ 心理臨床

どのような研究をなぜ行っているか

人はもの=素材に対して実にさまざまな近づき方をします。アートセラピーにおける素材への反応の個人差について研究することが私の以前からの探求のひとつです。

アートセラピーとは、創作を用いて心身のwell-beingを改善・拡大していくためのメンタルヘルスの専門領域です。若いころアートセラピーを学び、人が「もの」を手で触って遊んだり、描いたりする作業の様子に、魅了されてきました。黒鉛筆でひたすら塗る、粘土をこねる、パステルを砕く、フィンガーペインティングで塗りたくる・折り紙を折る等の標準的な創作だけでなく、石ころやそのへんにあるものへのかわりも、その活動の特性によって与える心理的影響は異なります。

人の素材の扱い方や選択の違いには、その人の問題（困難）や対処様式、またリソース≒長所、そして将来の治療的な方向性にかかわる情報が詰まっています。研究では、アートセラピーの考え方を活用した心理臨床の場面で、素材の特性や課題などを、どのように理解し、セッションを構成するべきかについて探求しています。

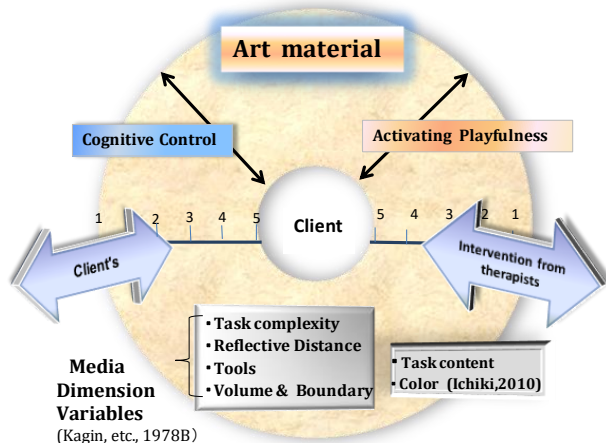


図1 アートセラピーセッションの構成(市来2013)

研究成果をどのように活用し、どのような貢献ができるか

描画療法や描画テストの領域に加えて、素材という視点を投入することは、相談場面で個人に応じたアプローチの幅を広げ、非言語的な表出の研究に大きく貢献できると考えます。特に「言葉」での表出になじまない子どもの問題への理解や支援をを考えるのに有効です。

この「素材」研究以外にも、アートセラピーを適用して、教育相談現場で使える「アートワークシートの開発」や、アートの活動を使った「教員のメンタルヘルスの向上」、「教員のカウンセリングマインド開発」に関する研究を行っています。



図2.不登校中学生の自己像としてのペンギン (色つきフェザー・石膏テープと新聞による)

これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

- ・ 甲南大学人間科学研究所客員特別研究員 2010～至現在
- ・ 奈良県内小学校教員研修および養護教諭研究会にて「教育相談における非言語的アプローチ」等に関する研究会担当。
- ・ 「保健室におけるアートセラピー的手法の導入に関する開発的研究（第1～3報）奈良教育大学附属小学校／共同研究 2009～2011

